

8-13		主題	新たな音楽プログラムへの取り組み（第2章）	
音楽プログラム		副題	～新・介護の3K「感動☆きらめき☆感謝」の実現にむけて～	
アクティビティー				
研究期間	15ヶ月	事業所	台東区立 みのわ高齢者在宅サービスセンター	
発表者：相談員 手塚 収				
共同研究者：高橋 恵児				
電話	03-5603-2245	メール	zai-mino@bz03.plala.or.jp	
FAX	03-5603-2240	URL	http://minowa-welfare.web.infoseek.co.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	台東区社会福祉事業団が母体であるみのわ高齢者在宅サービスセンターは、三ノ輪福祉センター内にあり、通所介護・認知症対応型通所介護・小規模通所介護の三つの事業を展開して織ります。 今回の発表は、アクティブ福祉 in 東京09で発表した「新たな音楽プログラムへの取り組み」の続編として発表します。お楽しみに！
------------------	--

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>アクティビティープログラムを展開してきたが、利用者の満足・ニーズ・年代の変化などにより、幅広いメニューの必要性を感じ、小規模通所介護にて、新たな音楽プログラムの構築に取り組んだ。</p> <p>第1章の課題を踏まえた第2章の展開 昨年春から始めた音楽プログラムの発展型行事「みのわ音楽祭」も今年7月で第六回を迎え、利用者中心の施設イベントとして定着・確立してきた。利用者や施設関係者からは、毎回楽しみにしている声も聞かれる。</p> <p>さらなる発展に期待したいところだが、介護の業界を支えているのはやはり、現場の職員、そして、利用者と接する地域のボランティア達である。まずは、底辺を支える現場の職員がモチベーションを向上させなければ地域福祉そのものの発展も難しい。</p> <p>「日本の福祉を元気にするため、まずは僕らが元気になろう！」という発想のもと、音楽を通じた新しいプロジェクトを展開させ、地域福祉のよりよい発展を支える地盤を構築していく。</p>
--

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者の新たな目標設定と可能性 既存の音楽プログラムの固定観念を取り払った音楽を通じた利用者の可能性の追求。 高齢になっても人は常に成長を続けていくことを実感できる音楽プログラムの展開。</li> <li>• 地域イベントとしての確立に向けての、みのわ音楽祭実行委員会の設置</li> <li>• 職員のやりがい、ボランティアの協力体制の確立 介護スタッフのモチベーションの維持・向上。 介護の仕事に対するマイナスイメージをまずは現場からプラスなものに。 新・介護の3K「感動☆きらめき☆感謝」の実現と浸透。 以上の目標を達成するため、やはり音楽が有効。 利用者に対する音楽プログラムだけではなく、幅広い概念での音楽のチカラ。 その様々な可能性を追求することで、結果、日本の福祉を元気にしていくことが期待できる。</li> </ul>
--

《具体的な取り組みの内容》

- ① 新たな音楽プログラム（第1章）の検証
- ・音楽レク（歌・楽器演奏）・民謡・三味線の会
  - ・歌声喫茶（利用者参加型）・カラオケ

\*第1章 みのわ音楽祭りの観客動員数（6回実施の効果）

\*区の介護相談員連絡会にて音楽プログラムについて発表依頼があり報告する

- ② 高齢社会の将来像を踏まえた通所介護プログラムの見直し

⇒第2章の展開（ボランティア・職員）  
ボランティア・職員に対して みのわ音楽祭～夜の部～ 開催

- ・魅力ある介護現場にするために
- ・施設の共通の取り組み（一体的事業）

⇒第3章に向けた展開

《取り組みの結果と評価》

・三ノ輪福祉センターに関わる職員が音楽祭を通じて連携強化でき一体感を深める事ができた

・みのわ音楽祭実行委員会が設置され、地域交流の基盤ができ前年度に比べてボランティア数が増加した

《まとめ》

『第3章完結編に向けた取り組み』

・日々の音楽プログラムの充実と音楽療法への取り組み

・さらなる地域行事への参加

・地域包括支援センター、音楽祭を通しての街づくり

《提案と発信》

新たな音楽プログラムへの取り組み（第3章）完結編 みのわ音楽祭の集大成。  
2011アクティブで発表予定！

【メモ欄】追加資料 無